

スマートフォンチャットの終結部の日韓対照研究 —構成要素と展開パターンを中心に—

李 涓丞

要 旨

本研究では、構成要素と展開パターンに着目し、日韓におけるスマートフォンチャットの終結部の構造の特徴を明らかにすることを目的とする。分析の結果、日韓両言語で終結部が存在しないチャットが観察された。構成要素において、[1 終結始まり・中間部]では、チャットを終結に導くために、「感謝の表明(日)」と「再接触の約束(韓)」が多用されることが分かった。[2 終結終わり部]では、「単独スタンプ(日)」と「理解表示(韓)」、「激励・幸せ・健康の祈り(韓)」を使用しチャットを終結していることが分かった。構成要素の数が日本語チャットより韓国語チャットに多く、展開パターンにおいても[拡大型]は韓国語チャットにより多く観察され、韓国語チャットは日本語チャットより積極的に相互交流しながらチャットを終結していると考えられる。以上のように両国で特有の構造が存在すること及びスマートフォンチャットでは新しい会話構造が現れていることが明らかになり、円滑な異文化間文字コミュニケーションのための示唆を得ることができた。

【キーワード】スマートフォンチャット、終結部、日韓対照、構成要素、展開パターン

1. はじめに

一般的に日本語非母語話者は日本語を学ぶ際、日本人との円滑なコミュニケーションの進行を期待する。中井(2004)は、会話におけるコミュニケーションをより円滑に進めていくためには、文法能力だけではなく、話し手や聞き手として会話に参加しながら話題を開始、終了していきけるかという談話能力も必要であると述べた。つまり、日本語非母語話者が日本語の単語や文法についての十分な知識があったとしても、日本語の会話構造に慣れていなければ、日本人との円滑なコミュニケーションに支障をきたす可能性があると言える。

また、倉田(2004)が新しい媒体を使うことによりコミュニケーション自体が変化する可能性がある指摘したように、会話の構造は、コミュニケーション手段によりその様子が変わる。最近では、新しいコミュニケーション手段として、スマートフォンを利用したチャットサービス、例えば、Kakao TalkやLINEなどが盛んである。このようなスマートフォンを利用したチャットサービス¹⁾は世界的によく使われており、外国人とのコミュニケーション手段としても注目を集めている。新しいコミュニケーション手段であるスマートフォンチャットは、対面会話における身振りや表情、電話会話の声などの視聴覚情報が排除された状態で、相手と文字とスタンプの

みで会話を進めていく。それゆえ、他のコミュニケーション手段で会話するよりも細心の注意を払い、自分のメッセージを伝えなければならない。

特にチャットを終結するときは、単純にメッセージを伝えるだけではなく相手との関係も考慮しなければならない。林(2001)は、電話会話の終結部は意思疎通において敏感な問題なので、電話会話の終結部で学習者が困るだろうと述べた。スマートフォンチャットでの会話の終結も同様であり、話題をまとめ、会話を終結しようとする意図を伝える一方、今後の友好的な関係維持のための何らかのプロセスが必要である。このように、スマートフォンによるチャットで会話を終結するのは、非母語話者にとって負担が大きいタスクであると思われる。このような状況で、スマートフォンによるチャットの終結部に関する日韓対照研究は、日韓間の円滑なコミュニケーションに役立つと考えられる。

したがって、本研究では、スマートフォンによる一対一チャットの終結部の構造について構成要素と展開パターンに着目して、日本語と韓国語の母語場面を比較し、その特徴を明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究及び本研究の位置づけ

2.1 コミュニケーション手段による会話構造

これまでの先行研究から各コミュニケーション場面により、各会話の構造にはそれぞれ違いがあることが確認されている。まず、船戸（2015）と岡本（2016）を参考に、各コミュニケーション場面による特性を表1のようにまとめる。

表 1. コミュニケーション場面の特性

	音声	文字	身ぶり
対面会話	有	無	有
電話会話	有	無	無
パソコンチャット	無	有	無
スマートフォンチャット	無	有	無
	同期性		既読機能
対面会話	高		—
電話会話	高		—
パソコンチャット	高		無
スマートフォンチャット	同期性を要求 (岡本, 2016)		有

対面会話は、会話参加者が音声と身ぶりなどの非言語的要素を用いて会話をする。実際に面と向かって発話するので、同期性も高い。電話会話は、相手と音声のみで会話をするが、電話がつながっている限り、同期性は高い。MSN メッセンジャーのようなパソコンによるチャットは、文字を用いてコミュニケーションを行うが、チャット参加者が接続していることを前提にチャットが始まるので、同期性が高いと言える。Kakao Talk や LINE などのスマートフォンによるチャットは、パソコンによるチャットと同様に主に文字でチャットを行うが、相手が必ずしもチャットに接続しているとは限らないので、同期性が高いとは言いがたいであろう。しかし、岡本（2016）は、相手がメッセージを確認したかどうかを表示する既読機能により、送受信の「同期性」への要求が強く、対面会話のようなコミュニケーションが志向されていると述べた。

電話会話においては、「開始部」、「主要部」、「終結部」という会話全体の構造が比較的明確化されており（Schegloff & Sacks, 1973; Clark & French, 1981; ザトラウスキー, 1993）、各部の特徴や会話を円滑に進めるためのストラテジーなどの研究が進んでいる。しかし、スマートフォンによるチャットでは、従来

の会話構造と思われる「開始部」、「主要部」、「終結部」の構造が成立しない場合もある。例えば、電話会話では、「バイバイ」のような別れの挨拶などで最終発話交換をしながら会話が終結する傾向が見られる（Schegloff & Sacks, 1973; 林, 2001）。一方、スマートフォンによるチャットでは、別れの挨拶まで行かず、これ以上新しく提示する話題がない意志を伝える「前終結の声明」でチャットを終結させたり（金, 2016）、「終結部」が見られずチャットを終結したりする可能性が十分あるのである。

以上から、コミュニケーション場面の特性は、会話スタイルにも影響を与え、コミュニケーション手段によりその会話の構造にも差が現れることが確認された。したがって、新しいコミュニケーション手段であるスマートフォンによるチャットでは、今までとは異なる終結部の構造が現れると予想され、その構造を明らかにする必要があると思われる。

2.2 終結部研究

Schegloff & Sacks (1973) は、電話会話の終結部を大きく「pre-closing (前終結)」と「closing (終結)」に2分類した。「pre-closing (前終結)」は、会話を終結する意図を会話参加者に伝達し、相手がそれに同意する部分をいう。「closing (終結)」は、「pre-closing (前終結)」の部分が終わった後から電話を切るまでの部分で、会話参加者間で最終発話交換を行い、電話会話を終結させる部分である。Schegloff & Sacks (1973) は、特に、最終発話交換で、隣接ペア²を用いて会話の終結が可能になると述べた。

Clark & French (1981) は、Schegloff & Sacks (1973) の終結部の構造をより細分化し、「Topic termination (話題終結)」、「Leave-taking (いとまごい)」、「Contact termination (接触終結)」に3分類した。「Topic termination (話題終結)」は、「pre-closing (前終結)」の声明とそれに対する応答をいい、「Leave-taking (いとまごい)」は、「Topic termination (話題終結)」から続く部分と最終発話交換の部分の部分をいう。「Contact termination (接触終結)」は、電話を切る音をいう。特に、Clark & French (1981) は、主に「いとまごい」に注目し、その機能を「reaffirmation of acquaintance (人間関係の再確認)」とした。

電話会話の終結部の対照研究には、岡本（1990）と林（2001）などが挙げられる。日英対照

分析を行った岡本（1990）は、終結部を「pre-closing」と「Leave-taking」に分けた。その結果、日本語の「Leave-taking」でよく現れる感謝やおわびは、互いに相手に対する気遣いを表すと同時に、会話終結への意思を表しながら、関係を損ねないように協力して相互作用を行い、「Closing」を完成させていくよう機能していることを確認した。

林（2001）は、日韓の20代の男女40組80人の電話会話をデータとして、終結部の構成要素の日韓の差を明らかにした。終結部を「pre-closing（前終結）」と「closing（終結）」に分け、さらに「closing（終結）」を「人間関係の再確認」と「最終発話交換」に分類した。その結果、「人間関係の再確認」で、日本語の場合、「お詫びの表明」が、韓国語の場合「再接触の要求」が、「最終発話交換」で、韓国語の場合、別れの挨拶以外の発話である「어-[o:]」と「응-[u:ng]」が特徴的であると述べた。

金（2016）は、異なる文化背景を持つ話者が、LINEを使用してコミュニケーションを行う際、どのように会話の終結を迎えるかを調べるため、依頼場面のロールプレイによって、中日接触場面と中国語母語場面を比較した。まず、終結部を「前終結の声明」、「人間関係の再確認」、「最終的やりとり」に分けた。その結果、中国語母語場面と日本母語話者が中国語母語話者に依頼をした接触場面では、「前終結の声明」だけで会話を終結させる例が現れた一方、中国語母語話者が日本語母語話者に依頼をした接触場面では、「前終結の声明」の段階で会話を終わらせた例はなく、会話終了の仕方に関する問題が存在することを確認した。

以上、先行研究からコミュニケーション手段、また話者の母語によって会話の終結部の構造が異なることが確認できた。しかし、スマートフォンは2009年頃から普及し始め、その歴史はまだ浅く、スマートフォンチャットに関する研究も始まったばかりの段階である。韓国は日本語学習者が多く、これからますますLINEなどで日本人とチャットをする機会が多くなると考えられるので、スマートフォンを用いてどのような発話で、どのような過程を経て、終結部が成り立っているのかを分析する必要がある。

そこで、本研究は、「構成要素」と「展開パターン」を中心に、スマートフォンによるチャットの終結部を日韓対照分析し、その構造を明らかにすることを目的とする。

3. 研究課題

本研究では、以下のような研究課題を設ける。

スマートフォンによる一対一チャットの終結部において、

RQ1 構成要素は日韓でどのような特徴があるのか。

RQ2 展開パターンは日韓でどのような特徴があるのか。

4. 研究方法

4.1 データと調査協力者（チャット参加者）

本研究の分析データは、スマートフォンを利用してKakao TalkとLINEで行った自由な話題の一対一チャットである。収集期間は2013年10月から11月までである。チャット参加者にチャットが始まった部分から当面の話が終わり、チャットが終結した部分までの一連の流れをスクリーンショットで保存してもらった。

チャットの参加者は、20～30代の友人関係の女性で、韓国語母語話者、日本語母語話者である。それぞれ42組のペアでチャットをしてもらい、韓国語チャット42件、日本語チャット42件、合計84件のチャットを収集した。その中で、話者交換が3回以上行われた韓国語母語話者間のチャット40件と、日本語母語話者間のチャット40件のみを分析対象とする。20、30代の女性はスマートフォンの操作に慣れており、頻繁にチャットを利用する世代と性別であるため対象者を女性とし、年代を20代から30代とした（丞, チョ, 2013）。

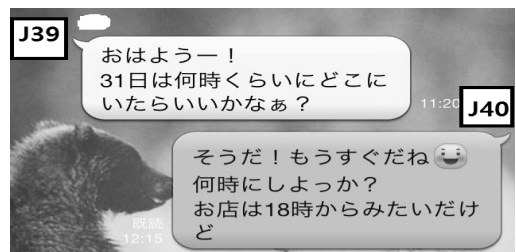


図1. 日本語チャットの原文



【例1】整理した日本語チャット

- 1 J39 おはようー！ 午前 11:20
31日は何時くらいにどこにいらいいかなあ？
- 2 J40 そうだ！もうすぐだね（絵文字） 午後 12:15
何時にしょっか？お店は18時からみただけど

図1は日本語母語話者 J39 と日本語母語話者 J40 の間で行われたチャットの原文で、話者交換が1回行われた部分である。それを分析のため、【例1】のように整理した。話者が発話するたびに1, 2と番号を付けて発話順番を示した。次に、日本語母語話者はJ、韓国語母語話者はKで表した。チャットの内容はそのまま文字で表し、絵文字や単独スタンプは括弧の中に示す。最後にメッセージが送られた時間を記録する。

4.2 分析方法

チャットの構造を分析するために、まず、終結部の範囲を「最後の話題が終結する時点から最終の発話まで」と見なす。特に、終結に導く機能がある発話と、相手の発話に対して答えながらチャットの接続を終える機能がある発話を区別するために、終結部は[1 終結始まり・中間部]と[2 終結終わり部]に分ける。その後、各終結部の構成要素と発話の展開パターンに注目して日韓対照分析を行った。

4.2.1 終結部の範囲

本研究での終結部は以下の囲まれている部分である。

【例2】日本語チャットの終結部の例

10 J7 はい! 午前 12:06
 なんだか久しぶりで色々ドキドキです(絵文字)(絵文字)
 眠れるかなー
 おやすみなさい(絵文字)
 11 J5 ちなみに、今日は、13度くらいに
 なったときは、薄手のコートが
 暑かったよ 午前 12:06
 おやすみ~(絵文字)またねん。 午前 12:06
 12 J7 さんきゅー(絵文字) 午前 12:07

終結部の発話は、終結部に導入して会話を終結させようとする機能があるものと、相手との会話を完全に終結する機能があるものがある。例えば、【例2】で、J7は「はい! なんだか久しぶりで色々ドキドキです/眠れるかなー」と言った後、「おやすみなさい」と言っている。この「おやすみなさい」は新しい話題を出さず、チャットを終結したいという意図を伝えていると考えられる。したがって、本研究では、この「おやすみなさい」からチャットの最後までを終結部と見なす。しかし、最後の発話、

「さんきゅー」の後、完全にチャットの接続が終結したため、この「さんきゅー」はチャットの接続を終結する機能があると考えられる。このように終結部の中でも違う機能があることが確認できるため、「おやすみなさい」からJ5の「またねん。」までは[1 終結始まり・中間部]と、「さんきゅー」は[2 終結終わり部]と分けて分析を行った。

終結部の構成要素は、岡本(1990)、林(2001)を参考にして表2と表3のようにまとめる。

表2. [1 終結始まり・中間部]の構成要素

構成要素	説明
話題整理	最後の話題の整理、まとめをする
終結理由の提示	明示的に会話を終結する理由を提示する
繰り返し同意	相手の発話をそのまま繰り返して同意を表す
感謝の表明	「ありがとう」のような感謝の言葉を表明する
依頼表現	「お願いします」のような請願を表明する
激励・幸せ・健康の祈り	相手を激励したり相手の幸せや健康などを祈る
再接触の約束	また連絡することや会うことを約束する
再連絡の要求	また連絡してほしいことを間接的に表す
別れの挨拶	「またね」、「おやすみ」のような別れの挨拶をする
理解表示	相手の先行発話について「了解」のような理解を表示または受容する
その他	その他に「寝ない?」のように話題終結のシグナルを表す

表3. [2 終結終わり部]の構成要素

構成要素	説明
感謝の表明	「ありがとう」のような感謝の言葉を表明する
依頼表現	「お願いします」のような請願を表明する
激励・幸せ・健康の祈り	相手を激励したり相手の幸せや健康などを祈る
再接触の約束	また連絡することや会うことを約束する
単独スタンプ	文字を使用せずスタンプのみを提示する
理解表示	相手の先行発話について「了解」のような理解を表示または受容する
別れの挨拶	「またね」、「おやすみ」のような別れの挨拶をいう

構成要素により [1 終結始まり・中間部] は「話題整理」、「終結理由の提示」、「繰り返し同意」、「感謝の表明」、「依頼表現」、「激励・幸せ・健康の祈り」、「再接触の約束」、「再連絡の要求」、「別れの挨拶」、「理解表示」と「その他」に 11 分類する。[2 終結終わり部] は「感謝の表明」、「依頼表現」、「激励・幸せ・健康の祈り」、「再接触の約束」、「単独スタンプ」、「理解表示」、「別れの挨拶」に 7 分類する。そのうち、両方に現れる構成要素は、どの部分で現れたかによりその機能が異なるため分けて分類する。

終結部の展開パターンは、発話間の隣接ペアの成立の有無に注目して、その発話の組み立てられるパターンにより分析の枠組みを作成した。対面会話や電話会話は同期性が高いため、話し手が発話すると聞き手がそれに対する反応を示す隣接ペアの関係が成立する。しかし、スマートフォンによるチャットは、同期性が強く求められるが（岡本, 2016）、対面会話や電話会話ほどではない。スマートフォンによるチャットは、相手がメッセージを確認しないと、発話交換が起こらず、一方的な話しかけになるか、あるいは相手からの返事があるまで話が進まない。チャットの終結部では相手に伝えなければならないメッセージは主要部ですでに送信しているので、相手の反応を待つ時間は十分ある。そのため、相手に答える意志があればいつでもチャット参加者間の言葉の交換が続けられるのである。このようなスマートフォンチャットというコミュニケーション手段の特性に着目し、終結部の展開パターンは、隣接ペアの観点から次の表 4 のように分類する。

表 4. 終結部の展開パターン

類型		説明
拡大型		終結を始める発話に対して相手の反応があり、発話の隣接ペアが成立する場合
非拡大型		終結始まりの発話がチャットの最後の発話である場合
ゼロ型	話題完了	終結部が存在しないが、チャットの最後の発話で当面の話題が完了したと判断される場合
	話題非完了	終結部が存在せず、尚且つ、チャットの最後の発話で当面の話題が完了しなかったと判断される場合

終結部が存在して、そこで隣接ペアが成立する展開パターンは [拡大型]、成立しないパターンは

[非拡大型] とする。[ゼロ型] は終結部が存在しないものをいう。[ゼロ型] はさらに、終結部の構成要素が現れなかったとしてもチャットの最終の発話で当面の話題が完了していれば「話題完了」、話が途中で終わっていれば「話題非完了」に分類した。

5. 結果

5.1 構成要素について

日本語チャットと韓国語チャットで、終結部が存在しているチャットの数、表 5 に示した通りである。終結部が存在するという事は、終結部の構成要素が現れていることを意味し、終結部が存在しないということは、終結部の構成要素が 1 つも現れずにチャットが終わっていることを意味する。

表 5. 終結部の有無

終結部	日本語	韓国語
有	22 件	25 件
無	18 件	15 件
合計	40 件	40 件

日本語チャットで終結部が存在したのは 40 件のチャットのうち 22 件であり、韓国語チャットで終結部が存在したのは 40 件のチャットのうち 25 件であった。

終結部が存在する日本語チャットで、[1 終結始まり・中間部] に現れた構成要素は 31 回、[2 終結終わり部] に現れた構成要素は 18 回で、合計 49 回の構成要素が終結部で観察された。終結部が存在する韓国語チャットで、[1 終結始まり・中間部] に現れた構成要素は 48 回、[2 終結終わり部] に現れた構成要素は 23 回で、合計 71 の構成要素が終結部で観察された。

以下の表 6 は [1 終結始まり・中間部] の構成要素の出現頻度（回）と比率³（%）である。日本語チャットでは「感謝の表明」と「激励・幸せ・健康の祈り」が最も多く（22.6%）、韓国語チャットでは「再接触の約束」が最も多く（33.3%）現れた。

表 6. [1 終結始まり・中間部] の構成要素の出現頻度（回）と比率（%）

構成要素	日本語	韓国語
話題整理	1 (3.2)	2 (4.2)
終結理由の提示	0 (0)	3 (6.3)

[2 終結終わり部] でも、「依頼表現」は日本語チャットだけに観察された。岡本 (1990) は、「よろしくお願ひします」は、内容によってある程度決まっている別れの言葉であると述べており、それがスマートフォンチャットでも同様に確認できた。「単独スタンプ」は韓国チャットより日本語チャットで多く見られたが、「激励・幸せ・健康の祈り」と「理解表示」は、韓国語チャットで多く見られた。以下の例から実際にどのような構成要素によりチャットが終結するかを確認する。

【例 6】2-「激励・幸せ・健康の祈り」の韓国語チャット

- 16 K5 앓축제!! 학교에서 남은시간 잘 보내~ 午後 12:32
 あっ祭り!!残った学生時代を楽しんでね~
 추억거리는 그거밖에 없더라구ㅎㅎ
 思い出の種はそれしかないよ。(笑)(笑)
 난이제점심시간끝TT 午後 12:32
 私はもう昼休み終わりTT
- 17 K6 TTTTㅋㅋ TTT (笑)(笑) 午後 12:33
 (이모티콘) (単独スタンプ) 午後 12:34
 일 쉬엄쉬엄 해요 언니 ^^ 午後 12:34
 仕事ゆっくりしてね お姉さん ^^
 2-「激励・幸せ・健康の祈り」

【例 6】は、昼休みが終わるのでチャットを終結しようとする K5 の意図を理解し、K5 と同じ感情を表現し、単独でスタンプを送り、その後、「仕事ゆっくりしてね」と「激励・幸せ・健康の祈り」の構成要素を用いてチャットを終結している。

【例 7】2-「単独スタンプ」の日本語チャット

- 7 J5 外出は危ないですからね 午前 11:49
- 8 J6 東京は抜けたみたいで晴れ間も覗いているけど、
 まだ風があるね。 午前 11:51
 ご心配ありがとうございます (絵文字)
- 9 J5 気をつけて~ (絵文字) 午前 11:52
- 10 J6 (単独スタンプ) 2-「単独スタンプ」 午後 12:00

【例 7】は、J5 の「気をつけて」の発話に対して、文字なしの単独スタンプのみを送信した例である。しかし、単独スタンプの次のチャットが続かなかつたため、この「単独スタンプ」は、チャットを終結する性格の構成要素と言える。

【例 8】2-「理解表示」の韓国語チャット

- 4 K17 ㅇㅇ그러자TTT 午後 5:30
 うんうんそうしようTTT
 어쩐지 날씨가 꾸리꾸리하다라니
 なんか天気が悪いと思ったらね
- 5 K16 그니깐요T=그럼일단넬아침에연락하게용ㅋ 午後 5:39
 そうですねT(笑)では一応明日の朝連絡しますね(笑)
- 6 K17 응^^ 午後 5:49
 うん^^ 2-「理解表示」

【例 8】は、また連絡するという K16 の発話に理解したという「理解表示」を示しながらチャットが終結した例である。

5.2 展開パターンについて

終結部の展開パターンには日韓でどのような特徴があるか検討する。表 8 は日韓母語場面チャットの終結部の展開パターンの出現頻度(件)と比率(%)を表している。

表 8. 終結部の展開パターンの出現頻度(件)と比率(%)

類型	日本語	韓国語	
拡大型	18(45.0)	23(57.5)	
非拡大型	4(10.0)	2(5.0)	
ゼロ型	話題完了	9(22.5)	7(17.5)
	話題非完了	9(22.5)	8(20.0)
合計	40件(100%)	40件(100%)	

まず、韓国語・日本語チャット両方で[拡大型]と[ゼロ型]が多く観察された。特に、韓国語チャットで[拡大型]がより多く観察された。

【例 9】[拡大型]の韓国語チャット

- 11 K59 그러게TTT 진짜 지난주까지 정신없었는데 午後 1:39
 そうだねTTT本当に先週まで忙しかったけど、
 난 이제 괜찮아져서 (이모티콘) 내년엔 타이밍 맞춰보자
 これからは大丈夫(絵文字) 来年時間合わせて会おう
 1-「再接触の約束」
 시험준비 힘내 (이모티콘) 午後 1:39
 試験準備頑張って(絵文字)
 1-「激励・幸せ・健康の祈り」
- 12 K61 응응감기 조심질하구!! 午後 2:53
 うんうん風邪に気を付けて~!!
 1-「理解表示」2-「激励・幸せ・健康の祈り」

【例 9】は、K59 の「来年時間合わせて会おう」と「試験準備頑張る」について、K61 は「うんうん」と反応をした後、「風邪に気を付けて」と K61 も相手の健康を気遣い、チャットを終結している。このように終結が始まる発話（【例 9】では、「来年に時間合わせて会おう」）について相手の反応があり、発話の隣接ペアが成立する終結部の展開パターンは「拡大型」に該当する。

【例 10】[ゼロ型] - 「話題完了」の韓国語チャット

- 9 K44 아~ㅋㅋㅋ あ~ (笑) (笑) (笑) 午後 12:57
 그랬군하(이모티콘) そうなんだ (絵文字) 午後 12:57
 10 K43 통화가능~??? 電話可能~??? 午後 12:57
 11 K44 응ㅋㅋㅋ うん (笑) (笑) 午後 12:57

【例 10】は、[ゼロ型] - 「話題完了」で、終結部の存在しないチャットである。しかし、K43 の「電話可能~???」に対して、K44 が「うん」と返答したので、このチャットは終結部を開始する構成要素が現れなくても不自然ではないだろう。

【例 11】[ゼロ型] - 「話題非完了」の日本語チャット

- 12 J46 セクシードラキュラっぽいの 午後 2:55
 やりたい！真っ赤なルージュで (笑)
 イメージできる? (笑)
 13 J45 絶対可愛いなー (絵文字) 笑 午後 2:57
 J45 も、真っ赤な口紅塗って
 みたい笑 J45 どうしよー (絵文字)

【例 11】は、ハロウィンの変装について話している場面であるが、J45 はまだ自分の変装を決められず迷っている状況である。「どうしよー」と言いながら悩んでいるが、それについて J46 が応答しなかったため、この話題も終了し、その流れでチャットも終結してしまった。このように当面の話題が最後の発話によって十分完了されなかったと判断できるのが [ゼロ型] の「話題非完了」に該当する。

以上、本研究では、スマートフォンによる一対一チャットの終結部の構造を構成要素と展開パターンに注目して日韓対照分析を行った。その結果を以下の 4 点にまとめる。

第 1、スマートフォンによるチャットでは、終結

部の構造が存在しない場合がある。

第 2、終結部で観察された構成要素の数は日本語チャットより韓国語チャットに多かった。

第 3、[1 終結始まり・中間部]において、日本語チャットでは「感謝の表明」が、韓国語チャットでは「再接触の約束」が多く現れ、それを用いてチャットを終結に導くことが分かった。[2 終結終わり部]においては、日本語チャットでは「単独スタンプ」が、韓国語チャットでは「理解表示」と「激励・幸せ・健康の祈り」が多く現れ、それらにチャットを終結する機能があると言える。また、終結部全般において、日本語チャットでは「依頼表明」が韓国語チャットより多く、韓国語チャットでは「理解表示」が日本語チャットより多く観察された。第 4、展開パターンにおいて、[拡大型]は韓国語チャットが日本語チャットに比べ多く観察された。終結部が存在しない [ゼロ型] でも当面の話題は完了している場合も日韓両国で少なくなかった。

6. 考察

スマートフォンチャットは、終結部がなくとも特に違和感がなく、それがチャット参加者の関係に大きな影響を与えることはない。それは、今までのコミュニケーション手段とは異なるスマートフォンチャットの特徴であると言える。それが可能な理由をいくつか挙げる。まず、スマートフォンチャットは、主に親しい関係で使われるコミュニケーション手段であるため、人間関係の再確認のような相手との関係維持を目的とする作業が省略されたり、簡略化されたりしやすいと考えられる。次に、「5.2 展開パターンについて」の第 4 でも述べたように、終結部がなくとも当面の話題が完了した場合は、チャットの目的は達成できたので、チャット参加者間では暗黙的に相手とのやり取りが終了したと感ぜられる。最後に、スマートフォンチャットは、アプリケーションを起動さえすれば過去に相手とやり取りしたメッセージが確認でき、メッセージの送信時にも、電話会話のように相手と同時に繋がっている必要がなく、いつでもメッセージを送ることができる。そのため、スマートフォンチャットは接続を終結するという考えが薄く、あえて別れの挨拶などをいう必要さに欠ける。

終結部全般から観察された構成要素は日本語チャットで 49 回、韓国語チャットで 71 回である。単

純計算してみると、日本語チャット 1 件で約 2.22 回の構成要素が、韓国語チャット 1 件で 2.84 回の構成要素が使用されたと言える。注目したいのは、日本語チャットより韓国語チャットでより多くの構成要素が使われていたことである。林 (2001) の電話終結部研究では、終結部全体の長さについて日韓の相違が見られなかったと報告したが、タカスカ (高須賀, 2006) は、日韓母語場面の電話会話で終結部の構成方法の複雑さを発話交換数から確認したところ、日本語母語話者間の発話交換数が多く現れ、韓国語母語話者間の会話より日本語母語話者間の会話で、より複雑な様相で終結部が成り立っていることを確認した。林 (2001) とタカスカ (高須賀, 2006) の結果は異なるが、本研究では、展開パターンで、韓国語チャットで [拡大型] がより多く現れたことから、日本語チャットより、比較的積極的にメッセージを送って相手と隣接ペアを作りながら終結部を構成していることが確認できた。その理由は、終結部で使用される構成要素の性格によるものだと考えられる。

日本語チャットは、チャットを終結させる構成要素として「単独スタンプ」が韓国語チャットより多く見られた。スタンプの機能は送り手の意図や感情を伝えるとされているが、終結部で使われる文字なしの「単独スタンプ」はもうこれ以上話すことがないという意図を視覚的にやわらげて伝えると考えられる。そのため、「単独スタンプ」を使った日本語チャットが、「再接触の約束」や「激励・幸せ・健康の祈り」など相手の応答が来やすい構成要素を使った韓国語チャットより、終結部で現れる構成要素の数が少なくなったり、構成が単純になったりするのではないかと推察される。

また、岡本 (1990) の研究から感謝やおわびには、「Closing」を完成させる機能があることが確認されているが、本研究では、おわびがスマートフォンチャットの終結部で現れた例は見られなかった。終結部でおわびを言わない理由としては、チャットの相手が親しい関係であることと、常に終結がきちんと成立するとは限らないので、おわびをいう機会が電話会話より少ないことが考えられる。一方、韓国語チャットは、「再接触の約束」や「激励・幸せ・健康の祈り」などの構成要素を用いて、日本語チャットより積極的に相互交流しながらチャットを終結する傾向があることが分かった。そこから韓国

語チャットは終結部で相手との社会的関係の構築を図っていると考えられる。

7. まとめと今後の課題

LINE コミュニケーションは LINE 特有の文化として成り立っているという指摘 (西川・中村, 2015) の通り、スマートフォンチャットでは新しい会話構造が現れていることが確認できた。さらに、終結部の構造の特徴を日韓で比較したところ、両国で特有の構造が存在することが明らかになった。

スマートフォンチャットは日韓接触場面においても多用されているが、接触場面でも母語場面と同様にチャットを終結してしまうと、相手に違和感を与えたり、不必要な誤解を招いたりする可能性もある。終結部は、会話を終結する機能がある一方、相手と友好的な関係を保つためのやり取りも現れる部分でもあり、今後、日韓間の円滑なコミュニケーションのためにこの分野の研究は重要である。特に、異文化間教育において今までは音声コミュニケーションに焦点を当てたものが中心であったが、これからは文字コミュニケーションにも目を向ける必要があると考えられる。そのため、本研究では、日韓母語場面の終結部の構造の特徴を明らかにしたが、開始部の構造はまだ明らかになっていない。開始部はチャットを始め、本題に入る前までに、相手と挨拶をしながら声をかけた理由を上手に伝達するために何らかのプロセスが必要な部分である。このようなプロセスには日韓間で異なる形が見られる可能性が示唆される。今後は、本研究の結果を踏まえ、開始部及び接触場面の特徴を探りたい。

謝辞

本稿の執筆にあたり、ご指導いただきました佐々木先生、貴重なコメントをくださった査読の先生方、そして、ゼミの皆様にご心より感謝申し上げます。

注

1. スマートフォンを利用したチャットサービスは、音声・ビデオ通話の機能も提供しているが、本研究ではスマートフォンチャットサービスの主な機能である、文字を利用したチャットのみを研究対象とする。
2. 隣接ペア (隣接対) は異なった話し手によって発された発話で、Schegloff & Sacks (1973) は隣接ペアが成立するための条件を次のように規定している。隣接ペアは次のような特徴を持つ 2 つの発話の連続である。

- a. adjacent (隣接している)
 - b. produced by different speakers (違う話者により発話される)
 - c. ordered as a first part and second part (第1発話の次に第2発話が来る順序になっている)
 - d. typed, so that a particular first part requires a particular second part (類型化されていて、特定の第1発話は特定の第2発話を要求する)
3. 本研究で表す比率は、小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを表示することに統一する。

参考文献

林美善 (2001) 「電話会話の終結部に現れる日韓の相違に関する一考察：日韓の20代の親しい友人同士の電話会話から」『言語文化と日本語教育』(22), 77-91.

岡本能里子 (1990) 「電話による会話終結の研究」『日本語教育』(72), 145-159.

岡本能里子 (2016) 「雑談のビジュアルコミュニケーションーLINEチャットの分析を通してー」『雑談の美学言語研究からの再考』ひつじ書房

金鑫 (2016) 「LINE接触場面における会話終結部の研究：日本語母語話者と中国人日本語学習者の依頼談話から」東海大学大学院日本語教育学論集 1(3), 46-68.

倉田芳弥 (2004) 「日本語母語話者同士による一対一のチャットの会話の開始部：構成要素とその順序を中心に」『言語文化と日本語教育』(28), 58-64.

船戸はるな (2015) 「継続的な文字チャットによる日本語

学習者の情報の伝達に関わる言語表現の変化」平成27年度お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士論文

ポリー・ザトラウスキー (1993) 『日本語の談話の構造分析ー勧誘のストラテジーの考察ー』くろしお出版

中井陽子 (2004) 「話題開始部/終了部で用いられる言語的要素ー母語話者及び非母語話者の情報提供者の場合ー」『講座日本語教育』40, 3-26.

西川勇佑・中村雅子 (2015) 「LINEコミュニケーションの特性の分析」『東京都市大学横浜キャンパス情報メディアジャーナル』16, 47-57.

Schegloff E. A. & Sacks H. (1973). Opening up closings, *Semiotica* 8, 289-327.

Clark H. H. & French J. W. (1981). Telephone Goodbyes, *Language in Society* 10, 1-19.

조화 (2013) 「스마트폰이용자의 성별 연령별 이용현황에 대한 연구」*Internet&Security Focus* 2013 (11), KISA 한국인터넷진흥회

チョウ(2013) 「スマートフォン利用者の性別年齢別利用現況に関する研究」*Internet&Security Focus* 2013 (11), KISA 韓国インターネット振興会

타카스카 요코 (2006) 「한국어 학습자의 전화 대화 종결부 연구 : 일본어 모어 화자를 대상으로」이화여자대학교대학원논문

高須賀 陽子(2006) 「韓国語学習者の電話会話終結部研究：日本語母語話を対象に」梨花女子大学大学院論文

い よんすん／お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科
ysking0128@gmail.com

Japanese-Korean Contrastive Analysis of the Closing Section of Smart phone Chat: Focusing on Components and Development Patterns

LEE YEONSEUNG

Abstract

This study aims to examine structure characteristics of the closing section of Japanese and Korean smartphone chat, focusing on components and development patterns. The analysis showed that the closing sections are often omitted in both Korean and Japanese chat conversations. Furthermore, in the [1 beginning/middle part of the closing section], [expressions of appreciation] in Japanese chat and [promises of re-contact] in Korean chat, lead to termination of conversation. As for the [2 end part of the closing section], it was found that [single emoticons] are used to end conversations in Japanese chat, while [comprehension sign] and [encouragement / happiness / health wishes] are used in Korean chat. It is argued that Korean chat displays a more active interaction as a greater number of components is used and the [expansion type] development pattern is more frequently observed than in Japanese chat. Finally, this paper concludes that the chat conversations in both countries have a unique structure and that a new kind of conversation structure appears in smartphone chat. Moreover, this paper provides a suggestion for smooth text message communication between different cultures.

【Keywords】 Smart phone Chat, Closing Section, Japanese-Korean Contrastive Study, Components, Development Patterns

Graduate School of Humanities and Sciences, Ochanomizu University